

## 事業中評価チェックリスト

				番号	29	
事業名	土砂災害対策事業 (急傾斜)	路線・河川 ・地区等名	わかき 若木	施行 場所	やまがたしおおざわかき 山形市大字若木	
評価該当基準	事業採択後5年間を経過した時点で継続中の事業 (山形県(県土整備部)公共事業評価実施要領5-(1)-イ-(イ))			実施主体	山形県	
事業採択年度 目標年度 [当初目標年度] (過年度評価時目標)	R2 R10 [R6] (-)	全体事業費(進捗度%)	4.3億円 (25.2%)	事業延長等 供用延長等	植生基材吹付工 A=4,000m <sup>2</sup> -	
		内工事費	3.1億円 (3.9%)			
		内用地・補償費	0.1億円 (93.9%)			
		内測試費等	1.1億円			
<b>事業の目的(地域性・特質性)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・若木は、山形市西部する若木楯跡の北斜面で、平均斜面勾配は36°、斜面下部には一級河川藤沢川が流れ、対岸側には人家が密集しており、土砂災害(特別)警戒区域は平成25年4月に指定されている。</li> <li>・当地は、基盤岩条に段丘堆積物の土砂と、土砂化した風化岩が分布している。地形は沢上地形を呈し、表流水や浸透水が集まりやすい条件となっており、令和2年の豪雨により、滑落崖に露出する土砂地盤が崩落したものの。</li> <li>・本事業により、急傾斜地の崩壊による災害から住民の生命を保護し、地区の保全を図るものである。</li> </ul>						
<b>事業概要(主要工事内容)</b>						
植生基材吹付工 A=4,000m <sup>2</sup> 、重力式擁壁 L=20m						
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度末時点で、用地補償の進捗率は94.9%となる見込みである。</li> <li>・令和6年度は埋蔵文化財発掘調査中で、令和7年度から本工事に着手予定である。</li> </ul>						
<b>上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次山形県総合発展計画 → 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり(政策の柱4)</li> <li>・やまがた水害・土砂災害対策中期計画→確実に効果的な砂防関係施設の整備(5.2土砂災害対策編 取組2)</li> </ul>						
<b>今後の事業の見通し</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地取得が概ね完了していることから、埋蔵文化財発掘調査が完了し次第、早期の工事着手を目指す。</li> </ul>						
<b>事業を巡る社会経済情勢等の変化</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 国、県の政策や計画の転換等 暮らしの安全・安心に直結する事業であり、政策や計画の転換はなし。</li> <li>② 財政状況の変化 財政状況に変化はない。</li> <li>③ 事業実施地域の周辺環境の変化 開発等もなく、周辺環境に変化はない。</li> <li>④ 地元の協力体制の変化 事業に対する反対者はなく、協力体制に変化はない。</li> <li>⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 保全対象に大幅な変化はない。</li> <li>⑥ 代替方策による必要性の変化 施工性、民地への影響や経済性等を考慮し最善の工法を選定しており、代替方策による必要性の変化はない。</li> <li>⑦ その他 地域住民の高齢化に伴う地域防災力の低下が進行しており、この観点からも防災施設整備が急がれている。</li> </ol>						
<b>事業の投資効果</b> (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例						
投資効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若木地区の人家8戸の家屋、家庭用品被害及び人的被害を軽減する。</li> <li>●市道104m等の施設被害を軽減する。</li> <li>○土砂災害に対する不安感を解消し、安心感が向上する。</li> </ul>					
社会的割引率	B/C	B/Cの代表的 な分析指標	・総便益の現在価値(B)			7.9億円
4%	1.9		・総費用(事業費+維持管理費)			4.1億円
2%(参考値)	2.9		の現在価値(C)			
1%(参考値)	3.6					
<b>●コスト縮減・○代替案等の可能性</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画時及び工事発注時に工法・資材等の検討を行い、コスト縮減に努めている。</li> <li>○想定される斜面崩壊現象に合わせた工法の中から、現場特性を踏まえ比較検討し、最も効果的かつ経済的に優れた工法を採用しているため、代替案はない。</li> </ul>						
<b>当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋蔵文化財の発掘調査が必要となった。渡河による工事となったため、仮設費が想定以上の金額となり、過年度に想定した年度計画が困難となっている。</li> </ul>						
評価区分	継続A	評価の理由	目標年次に対し4年の遅れとなるが、事業の重要性、地域の要望・協力を総合的に判断し、継続が妥当と判断した。			